

めざせ世界遺産登録 あなたも参加団体で活動しませんか？

鎌倉から次世代を担う人づくり

横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校



鎌倉市役所で世界遺産を学ぶ。

鎌倉市民に「附属」の名で親しまれている同校は、昭和22年の開校以来、鎌倉に支えられて、より良い教育活動の推進に努めています。そのひとつとして、「総合的な学習の時間」で将来の生き方を探究する学習活動が行われています。1年生は、人との出会いをテーマに、興味を持ったことについて鎌倉を中心にインタビューを行い、「人力車に迫る」「鎌倉の七口」「北条首やぐらと貝吹地蔵の伝説」等々、地域の皆様の協力で実りある学習ができています。2年生も、鎌倉を中心に3日間の職場体験を行い、3年生は、修学旅行の京都で専門的な立場の方を訪問します。また、3年生の国語の学習では、世界遺産登録に関する作文を書き、中学生作文コンクールに参加して好成績を収めています。

生徒は「伝統を、形式だけでなく、社会をよくしたいという共通の目的をもって、それぞれの良さを活かした角度で守っていききたい」と話し合っています。青木副校長は「人や地域と繋がり、伝統を大切にしながらも、未来を自分で創ろうとする生徒を育てたい」と語って下さいました。

学校見学等のお問い合わせは ☎0467-22-2033 まで。

世界遺産のまちへ 鎌倉づくり

鎌倉市民同窓会

20数年前から市民それぞれの多彩な経験を生かそうと、文化・環境・福祉をテーマに活動を展開してきました。江ノ電の魅力を見直そうと、納涼電車を復活させました。ビールと音楽を楽しみながら公共交通の価値を再認識して、2年連続して開催し、好評でした。

岩瀬青少年広場で、伝統の上総掘りによる湧水井戸の掘削を行いました。9月の苦闘の末、深度180mで水脈に到達。その清澄な湧水は地域に親しまれて、暮らしに役立ち、市の防災公園の核となっています。鎌倉の福祉団体を結集し、市やJRとともに鎌倉駅のバリアフリー化を進め、エスカレーターやエレベーター3基の設置が実現しました。

大津波などの災害から市民の生活と世界遺産のまち鎌倉の文化遺産を守り、まちづくりを進めるかという緊急フォーラムを昨年9月と今年6月に開催し、市民が専門家とともに議論を重ね、具体的な成果を得ました。

中島章夫代表は、「単に市民活動に終わることなく、行政や事業者に影響を与え、世界遺産のまちへ 鎌倉づくりをめざしています」と語っていました。

シンポジウム
世界遺産のまち鎌倉を守る



古都鎌倉の世界遺産登録って

なに？

第24回 鎌倉は、緑も世界遺産として守る

「武家の古都・鎌倉」を構成する資産は、武家政権所在地の整備に大きな影響を与えた山稜部と、その山裾や谷間などに造られた神社・寺院などの「重要な要素」から成り立っています。「重要な要素」とは、現存する神社や寺院と寺院跡・武家館跡・切通・港跡等の考古学的遺跡のことで、二十一カ所です。鶴岡八幡宮や大仏切通といった個々の社寺や史跡だけではなく、山稜部を含む範囲全体がひとつの資産であることが、「武家の古都・鎌倉」の大きな特徴です。

これまで、日本の世界文化遺産は文化財保護法の国宝・国重文・国史跡でした。鎌倉の山稜部一帯は、一九六四年の「御谷騒動」に端を発した保存運動をきっかけに重要な価値が認められて、一九六六年に制定された古都保存法により保全されてきました。このため日本で初めて、文化財保護法と共に、古都保存法の歴史的風土特別保存地区が世界文化遺産に推薦されることになりました。それらの周囲も歴史的風土保存区域なので、山は一体として保全されています。

このように鎌倉市民の知恵と努力によって、鎌倉は、文化財と周囲の緑とともに世界遺産として守ろうとしています。